

## 2010 年度 小委員会活動成果報告

(2011 年 2 月 15 日作成)

小委員会名	建築企画小委員会		主 査 名：阪田弘一 就任年月：2009 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築社会システム委員会		委員長名：森本信明
設 置 期 間	2009 年 4 月 ～ 2013 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>・本小委員会は、従来から設計の前段階で経済活動としての建築目標を設定する業務として認識されてきた建築企画が、成熟化・複雑化する現代社会において担うべき社会的役割の重要性が拡大していることを背景に、その望ましい実践方法について検討することを目的としている。そのために、建築企画実務者と建築企画研究者の連携を図り、最新の優れた建築企画実践例を広く公開するとともに、研究者らによる多面的な評価、理論へのフィードバックを行うことで実効性を高めると共に、社会的価値を重視した建築活動を牽引する。</p> <p>初年度： 昨年度までの活動成果である「建築・まちづくりの夢をカタチにする力」のPRを兼ねて、先進的実践例を題材とした公開見学会を行う。また、並行して成熟化社会に対応する建築そして建築企画を考える上で急務となる研究テーマおよび活動方針を検討し、研究推進のための体制づくりを行う。</p> <p>2～3年度： 昨年度に設定した研究テーマ『新たなビジネスモデルを有した社会的建築企画』に基づき、適宜他の学会小委員会や外部組織と「コラボレート」しながら、各種調査や研究会開催などの研究活動を進める。その経過や成果は、迅速にシンポジウムやセミナー、ワークショップ等の開催、また学会等での研究発表を通じて広く情報提供を行い、議論を深める。</p> <p>4年度： 3年間にわたって行ってきた研究成果をとりまとめ、実践の場で活用できるようなものとして、出版または日本建築学会大会におけるPD、講習会など、成果に見合った適切なメディア選択による成果発表の場を設ける。</p>		
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：無 阪田弘一(京都工芸繊維大学)、木多彩子(撰南大学) 上田正人(アーバンエース)、田中直人(撰南大学)、江本達也(JR西日本)、柏原士郎(武庫川女子大学)、佐々木正人、中村洋平(以上、竹中工務店)、高田光雄(京都大学大学院)、高井宏之(三重大学)、所 千夏(アトリエCK)、萩原正五郎(大林組)、林弥寿子(関西電力)		
設置 WG (WG 名：目的)	なし		
2010 年度予算	50000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： <a href="http://news-sv. aij. or. jp/keizai/kikaku/">http://news-sv. aij. or. jp/keizai/kikaku/</a>	

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	1. 『建築・まちづくりの夢をカタチにする力』韓国語版、彰国社
講習会	

<p align="center"><b>催し物</b> (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)</p>	
<p align="center"><b>大会研究集会</b></p>	<p>1. PD「建築ストックを活用した新たなビジネスモデルのための技術とデザイン」 参加者数 50名 (資料名) 同上</p>
<p align="center"><b>対外的意見表明・パブリックコメント等</b></p>	
<p align="center"><b>目標の達成度</b> (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<p>達成度80%程度 1. 活動計画に則って、小委員会・見学会などの活動を活発に行っている。 2. 2010年度日本建築学会技術部門設計競技原案を作成した本小委員会が、同競技の企画・運営を行った。 3. 上記イベントに関連した学会大会でのPDについて、企画・運営・頒布資料作成を行った。 以上のことから、小委員会としての定常的な活動に加え、本委員会活動にも貢献を果たしたという点から、一定の成果が得られたと考える。</p>
<p align="center"><b>委員会活動の問題点・課題</b></p>	<p>1. 委員公募、WG設置による委員会活動の新陳代謝と活性化を進めること 2. 4年間の活動で蓄積した知見について、その内容や時代性に即した発信方法等の具体化およびその構築を進めること</p>

\*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。